

# 高田援護室長の模型部屋(第25回)

皆さんこんにちは。もう十月も終わりに近づき、冬がやってきます。一年があっという間に過ぎてしまうと感じてしまうのは私の歳のせいなのでしょうが・・・受験を控える学生さんは追い込みですね。それを支えるご家族も含めて、みんながんばれ！来年の春にサクラサク事を祈ってます。

ちなみに我が家については今年は受験に関係ないので、私は気ままにプラモを作っています。エッチングパーツ接着等の細かい作業の時に娘達が邪魔をします。「わたしよりプラモが大切なんだ!」「かまってくれないと腐っちゃうぞ!」と、甘い恫喝(笑)をします。家族がいるっていいですね。でも、数年後には親の手を離れていくので、一人暮らしになる将来に少しビクビクしています。さて今回は・・・

**60式自走106mm無反動砲C型**です。



あれ、第4回で紹介していたじゃないか!と、お怒りの声が聞こえそうですが(汗)私の話を聞いてください。自衛隊の装備品は、同じ車種でも逐次改修され、バージョンアップしていくものがあります。今回の自走砲もその一つで、第4回で紹介させていただいたものはB型と呼ばれ、水冷エンジン搭載型なのですが、その後空冷エンジン搭載型に改修されていきました。

今回はその空冷エンジンタイプで、退役するまで使用されていたタイプです。車体後部のグリルやマフラーの形状が違うのが特徴です。私の娘達に言わせれば「どっちも一緒でしょ!よくわかんない!」と言われてしまいます。



このキットも前回に同じファインモールドさんから発売されたものです。射撃姿勢ではなく、走行姿勢で制作しました。低い車高であることが分かります。

作るなら、部隊マークのある車体がいいなと思い、守山駐屯地の第35普通科連隊所属車両としました。名古屋城の「しゃちほこ」マークがかわいいですよ。

第35普通科連隊は、古くから多くの武將を輩出した愛知県西部と岐阜県を隊区とし、彼らが戦った郷土とその伝統を守る精強な部隊です。(第35普通科連隊ホームページより)



一撃必中の射撃の後、速やかに陣地を離脱し、次の陣地で射撃・・・これを繰り返す自走対戦車砲は戦車の脅威です。



このキットは実は数ヶ月前から作成していたのですが、マフラーのメッシュ（右上）のエッチングパーツが入手できなかったために完成までに五ヶ月もかかりました。ネットで買えばすぐだったんですけど、私はネットで買い物するのが嫌いなものですから・・・

エッチングパーツには車長席前の補助照準具や土工具を止める蝶ネジなどが再現されており、精密感を高めてくれます。でも、細かいので取り付けや塗装時に飛ばさないように気を使いました。操縦席のペリスコープは透明部品なので、ガラス感を表現してます。



車体はGS1クレオスの陸上自衛隊戦車色セットを使用し、サクラマット水彩マルチ絵の具を食器洗い洗剤を少量加えた水で薄めてスミ入れし、タミヤのウェザリングスティックをドライブラシして、乗員が乗下車時に歩く箇所を重点に泥や埃を付着させました。

各ハッチ廻りに乾いた泥が乗っているのがわかりますか？あまり付着させすぎると汚いだけになります。やはり模型は飾るもの。ほどほどにしないと・・・



足回りの塗装は転輪と履帯をつや消しブラックで塗って取り付けて、転輪は車体色でリム部を、履帯はドライブラシで埃が付着している感を出しました。GS Iメタルカラーのダークアイアンをドライブラシすることで、ゴムと金属部の違いを表現しました。



フィギュアは、過去の私の写真や使っていた装具を参考に旧迷彩服を再現しています。日本海軍機色の明灰白色の上に濃緑色、レッドブラウン、つや消し黒とパターンを塗り重ねました。顔は初めてファレホモデルカラーを使用しました。少量で下地が透けず、とても使いやすいです。目はアイフィニッシャーという極細面相筆を使用して描きました。ですが、まだまだ練習不足ですね・・・



B型と大きく違う、空冷エンジンならではの冷却グリル部です。シャープなモールドが素晴らしいです。そこにスミ入れをすることで、更にくっきりとグリルが浮き上がります。

スミ入れはエナメル系の塗料を使用する方が多いと思いますが、その溶剤が接着した箇所を侵してしまい、部品が欠落してしまうので私はあまり使用しません。皆さんはどうやっているのかな？



**左がC型、右がB型(射撃姿勢) その違いを確認してください。**



**こちら無反動、射撃する！  
3の台、敵戦車、たいいゅう(対戦車榴弾)、撃て！**



「やっぱり違いがわからない！」との声が聞こえそうですね(笑)まあ、作った本人にしてみればこれでも違うキットを作ったと感じてしまうのですよ。自己満足ですから。今回はここまで。またお付き合いくださいね！